

第1章 静岡型小中一貫教育カリキュラムの特色

基本的な考え方

● 特色1

- ・これまで各学校の教育課程の編成・実施において推進してきた近隣校や地域との連携などの「たての接続」と「よこの連携」をさらに発展・進化させます。そのため、静岡型小中一貫教育カリキュラムでは、グループ校が学校間や地域との「つながり」を手段として、校長のマネジメントのもと教職員が英知を結集して、9年間を見通した特色ある教育活動を実践することを重視します。

● 特色2

- ・これまでの小中一貫教育¹⁴は、児童生徒の交流や乗り入れ授業などの教職員の協働が教育活動として重視されていました。それをさらに進めて、静岡型小中一貫教育カリキュラムでは、次の4視点を踏まえるものとします。
- ・学校間のつながりを、たての「つながり」として
 - 【視点1】学校の教育目標を共有していること
 - 【視点2】9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施すること
 - 【視点3】協働・交流のある教育をすることとします。
- ・また、地域と学校をつなぐつながりを、よこの「つながり」として、
 - 【視点4】地域と連携する教育をすることとします。

● 特色3

- ・これまでの各学校単位で同質の教育活動を展開する教育（標準性・統一性を重視）に加えて、グループ校の地域性を生かした「地域ならではの特色ある教育」（独自性を重視）をより一層、推進します。

14 これまでの小中一貫教育…平成26年5月に文部科学省が行った実態調査の結果において、小中一貫教育に取り組んでいる市町村は211箇所、件数は1,130件と多くの数に上ったが、①9年間を見通した学校教育目標を設定し、②連続性・系統性を強化したカリキュラムを編成・実施するといった小中一貫教育の中核とも言える事柄について、両方を具備している取組は全体の3割未満にとどまった。